

平成 17 年 7 月 10 日

岡山県教育職員互助組合の分析

概要

性格

岡山県職員の共済制度に関する条例に基づき、公立学校教職員等を対象に相互共済および福利増進はかり、本人及び扶養家族の福利、厚生、医療等に関する給付、貸付をおこなうことを目的とした岡山県教育委員会規則により設置された財団法人である。

組織構成

1. 役員 理事 18 名、監事 5 名 いずれも任期二年

理事長 1 名、副理事長 3 名、常務理事 4 名、理事 10 名、監事 5 名、

理事会 理事長（教育長）、副理事長（教育次長 県教組執行委員長 高教組執行委員長）、常務理事、理事 合計 18 名

評議員会 64 名、任期 2 年

2. 事務局

理事長、副理事長（教育次長）、常務理事（福利課長）、事務局長、事務局次長、互助主幹、班長（6 名）

班長 福利厚生班、互助経理班、給付班、貸付班、退職互助班、健康管理班

3. 事業内容

給付事業 療養補助金 結婚祝い金 災害見舞金 死亡弔慰金 遺児育英資金 退会給付金 介助助成金

健康管理事業 人間ドック（配偶者も含む）

文化厚生事業

貸付事業 生活資金 育児休業資金 物品購入資金 住宅資金 子女結婚資金 大学入学資金

預金事業 積み立て預金

団体保険事業

損害保険事業

退職互助部事業

4. 会員及び掛け金

会員 公立学校共済組合岡山支部の組合員 岡山県教育互助組合の役職員
退職互助部（満 35 歳になった翌年から掛け金を 300 回納めると特別会員となる） 扶養家族および 扶養家族でない配偶者・子・父母

掛け金 一般掛け金 $(給料月額 + 扶養手当) \times 8 / 1000$

退職互助部掛け金 $給料月額 \times 5 / 1000$

平成16年度（16年月から17年3月）の収支計算書総括表から

収入の部

1. 会員掛け金収入	1,010,423 千円
2. 補助金収入	305,696 千円
3. 会員預金収入	2,505,327 千円
4. 貸付事業収入	518,976 千円
5. 内部会計貸付金戻り収入	492,100 千円
6. 特定預金取り崩し収入	552,857 千円
7. 固定資産売却収入	599,650 千円
8. 繰入金収入	486,785 千円
9. その他	
当期収入合計	6,735,114 千円
前期繰越収支差額	1,944,023 千円
収入合計	8,679,138 千円

支出の部

1. 給付事業支出	1,407,154 千円
2. 退会給付金事業支出	158,185 千円
3. 会員預金支出	2,561,158 千円
4. 固定資産取得支出	600,461 千円
5. 内部会計借入金返済支出	492,100 千円
6. 特定預金支出	1,469,487 千円
7. 繰越金支出	486,785 千円
8. その他	
当期支出合計	7,752,050 千円
当期収支差額	△1,016,935 千円
次期繰越金収支差額	927,088 千円

この総括表で気がかりなこと。

1. 普通の銀行がおこなっている預金業務をなぜ互助会でおこなうのか会員に特別な有利な利子を支払っているのか。

1. 固定資産売却利益 599 千円が計上されているがなにを売ったのか。

2. 特定預金取り崩し収入が 552 千円あるがなにを売ったのか。

3. 前期繰越金が 1, 944, 023 千円あるが、補助金の 6, 3 倍も貯めている必要があるのか。補助金を貰う理由がない。

平成 16 年度の決算報告書（1）収支計算書のなかで、文化厚生事業執行内訳書をみるとチボリ公園の見物にための支出が岡山支部 464 千円、倉敷が 332 千円など合計すると 100 万円(参加人数は 1510 名となっている。どちらの報告も概数のようである。)を超えて入る。ほんとうにこれだけ希望者があったのか。うえからの強い意志が感じられる。いずれにしても教職員互助組合に対する補助金支出は改革のときを迎えているようだ。

文責 村上真幸